

慶應大阪シティキャンパス(KOCC) 夕学サテライト講座<2017 年度後期>

KOCC「夕学サテライト講座」は、東京丸の内シティキャンパス(慶應MCC)で行う定例講演会「夕学五十講」のうちの一部講演を、インターネット回線を通じてライブ中継により、リアルタイムで受講するものです。

2017/9/1(金) 12:00より申込受付開始(Web/Fax)

時間: 18:30~20:30(開場 18:00) 会場: 慶應大阪シティキャンパス(KOCC) 定員: 90名

講座料: 全15講演一括申込 20,000円, 個別申込 1講演@1,500円*

※個別申込は、一度のお申込枚数5枚につき合計金額から500円割引制度有。

*下記は2017/8/23現在調整中の予定です。事情により講演者・日程等が変更となる場合がありますことをご承ください。

1. 講演スケジュール(全15講演)	開催日・講師名・タイトル	主催: 慶應学術事業会
①10/3 高岡 本州 世界の睡眠を快適にするエアウィーヴの挑戦	⑥11/7 佐々木 宏 財閉会式とCM四方山と近頃ジャパンに、ひとこと。キーワードは『とんちとセンス』	⑩12/6 石川 康晴 ストライプインターナショナルのイノベーション
②10/6 梅田 悟司 思考を深め、言葉を磨く。	⑦11/14 浅田 次郎 読むこと 書くこと 生きること	⑫12/15 近藤 宣之 社員をとことん大事にする経営~黒字経営を継続するためのマネジメント~
③10/11 藤川 佳則 価値づくりの未来: デジタルが破壊する経営論理	⑧11/21 藤野 英人 投資の本質~人の可能性に投資する~	⑬1/16 瀬戸 健 失敗力
④10/24 菊澤 研宗 日本軍の失敗に学ぶ『組織の不条理』	⑨11/22 中原 淳/為末 大 仕事人生のリセットボタン: 長期間労働時代をいかに完走するか?	⑭1/17 松村 真宏 人を動かす『仕掛学』
⑤10/31 金原 亭馬生/荻野 アンナ 落語家の人育て	⑪11/28 米倉 誠一郎 イノベーターたちの日本史: 近代日本の創造的対応	⑮1/25 土井 善晴 和食を知らない日本人はいけないでしょ!

2. 講師&講演紹介

日付の右横< >内は2017年度後期夕学講座の講座テーマです。

① 10月3日(火) <戦略と技術が拓く近未来>

高岡 本州(たかおか もとくに) 株式会社エアウィーヴ 代表取締役会長兼社長

「世界の睡眠を快適にするエアウィーヴの挑戦」

90%以上を占める空気が快眠の鍵。伯父から引き継いだ工場の活用で注目したのは技術革新に乏しい寝具だった。一流選手や有名宿泊施設に提供、一方でスタンフォード大と睡眠研究を共同で行いデータを収集した。地道な努力で世界の睡眠革命をめざす高岡社長がエアウィーヴの挑戦を語る。

1960年愛知県生まれ。名古屋大学工学部応用物理学科卒業。慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程修了。スタンフォード大学大学院留学、経済システム工学科修士課程修了。日本人の1日の平均睡眠時間は7時間50分で、1位のフランスより1時間も少ないと言われている。働き方改革が叫ばれている昨今、睡眠不足や不眠症による経済損失は、年間数兆円にのぼると指摘され、睡眠の重要性にも注目が集まる。著書『睡眠品質 革命 一流を支えるエアウィーヴ成長の軌跡』は書店売上ランキングの上位にランクインしている。

② 10月6日(金) <人間の力を信じる経営>

梅田 悟司(うめだ さとし) 株式会社電通 コピーライター・コンセプター

「思考を深め、言葉を磨く。」

広告コピー = 奇抜と思いがちだが、梅田氏が受賞した作品の数々は、日常的な言葉の組み合わせであった。人は技巧ではなく、言葉の中に自分の思いを発見したときに心を動かされる。だからこそ、内なる言葉に向き合い、思考を深める。梅田氏の仕事論が文字表現に悩む人々へ解決策を提示する。

1979年生まれ。上智大学大学院理工学研究科修了。大学院在学中にレコード会社を起業後、電通入社。マーケティングプランナーを経て、コピーライターに。国内外30以上の賞を受け、2014~2016年は3年連続選出CM総合研究所が選ぶコピーライターランキングトップ10に選ばれる。タウンワーク『バイトするなら、タウンワーク。』は記憶に新しい。その他、TBS日曜劇場『99.9-刑事専門弁護士-』におけるコミュニケーション・ディレクターとしての番組宣伝、東北六魂祭の事業構想メンバーでもある。

③ 10月11日(水) <戦略と技術が拓く近未来>

藤川 佳則(ふじかわ よしのり) 一橋大学大学院国際企業戦略研究科 准教授

「価値づくりの未来: デジタルが破壊する経営論理」

モノとサービス。両者の区別が難しくなるにつれ、モノよりもサービスを経済活動の基本とする考え方が生まれる。企業が作った価値の消費から、企業と顧客が価値を共創する時代へ変遷しつつある。サービス・マネジメント専門の藤川准教授が、事例とこれからの価値づくりを解説する。

1969年京都府生まれ。一橋大学経済学部卒業。同大学院商学研究科修士。米ハーバード大学経営大学院でMBA(経営学修士)を取得後、米ペンシルバニア州立大学大学院でPh.D.(経営学)を取得。「サービス・マネジメント」という新しい学問領域の第一人者。これまでの企業経営では、形のある「モノ」の経営と、形のない「サービス」の経営を分けて考えるのが一般的だったが、モノとサービスを分けずに包括的にとらえて経営論理を明らかにしようとする考え方のもと、研究を進めている。

④ 10月24日(火) <日本の近代>

菊澤 研宗(きくざわ けんしゅう) 慶應義塾大学商学部 教授

「日本軍の失敗に学ぶ『組織の不条理』」

かつて山本七平は、日本軍は非合理的な「空気」に支配されていたと主張した。しかし菊澤教授は、「空気」は合理的に発生し、合理的不正・非効率という「組織の不条理」が起きていたことこそが要因だと喝破する。現代企業の不正問題にも通底する組織の不条理現象の本質に迫る。

1957年生まれ。慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程修了。防衛大学校教授、中央大学大学院国際会計研究科教授を経て現職。経営哲学学会理事。専門は新制度派経済学(組織の経済学)であり、「なぜ組織は合理的に失敗するのか、そしてこの不条理からどのようにして抜けだせるのか」を研究テーマとし、旧日本軍の事例などを用いて理論的な解決法や哲学的な解決法について研究している。

⑤ 10月31日(火) <人間の力を信じる経営> ※本講演は対談と落語一席の講演90分と質疑応答30分の構成です。

金原亭 馬生(きんげんてい ばしょう) 落語家

荻野 アンナ(おぎの あんな) 作家、慶應義塾大学文学部 教授

「落語家の人育て」

馬生師匠は、銀座生まれの江戸っ子噺家で、師匠としてまた落語協会理事として、弟子・若手の育成に努める。落語家の人育てに普遍原理はあるのか。馬生門下の一員として落語にも挑戦している芥川賞作家荻野アンナ教授が迫る。師匠の落語一席も楽しめる、まさに一石二鳥の90分。

【金原亭 馬生】東京、銀座出身の落語家。寄席に限らず活躍は幅広く、現在NHKラジオ深夜便の「深夜便 落語百選」にも解説者で出演中。得意ネタは、「文七元結」「芝浜」「らくだ」「庖丁」「紙入れ」「お直し」「王子の狐」「死神」「唐茄子屋政談」「富久」等、ネタ総数はおよそ三百本。本講演の当日の演目は、師匠曰く大ネタ中の大ネタという「100年目」。

【荻野 アンナ】1956年横浜市生まれ。フランス政府給費留学生としてパリ第4大学に留学シラブレールを研究。ソルボンヌ大学 博士号取得。1991年『背負い水』で芥川賞受賞。2002年『ホラ吹きアンリの冒険』で読売文学賞受賞。2008年『蟹と彼と私』で伊藤整文学賞受賞。2007年フランス教育功労賞シュヴァリエ叙勲。2002年より慶應義塾大学文学部教授。2005年11代目金原亭馬生師匠に弟子入りし金原亭駒ん奈を名乗る。

⑥ 11月7日(火) <こころと身体に向き合う>

佐々木 宏(ささき ひろし) クリエイティブディレクター

「リオ閉会式とCM 四方山と近頃ジャパんに、ひとこと。キーワードは『とんちとセンス』」

佐々木氏は、犬のお父さんCMなど数多くのヒット作を手掛け、またリオ五輪閉会式の五輪旗引継ぎセレモニーでは、サプライズ演出で会場を沸かせて世界に日本を印象づけて話題を呼んだ。粋な作品・ブランニングで世の中を動かし続ける佐々木氏が、東京五輪と日本への想いを語る。

1954年熊本生まれ。慶應義塾大学卒業後、電通入社。新聞雑誌局に6年。クリエイティブ局に転局して20年。コピーライター、クリエイティブディレクター、クリエイティブ局長職を経て、2003年7月「シンガタ」を設立。企業イメージや商品イメージのブランディングをはじめ、JR東海「そうだ 京都、行こう」や、SoftBank 犬のお父さん「白戸家シリーズ」など、受賞多数。リオオリンピック・パラリンピック閉会式では、椎名林檎らと共に「東京2020プレゼンテーション」を企画制作プロデュースした。

⑦ 11月14日(火) <この人に聞く>

浅田 次郎(あさだ じろう) 作家

「読むこと 書くこと 生きること」

40歳で本格デビューを飾った遅咲きの作家。三島事件に触発されての自衛隊入隊や多様な仕事の経験から、その筆は悪漢、歴史、ユーモアに富む現代ものまで縦横無尽に駆け巡る。6月まで日本ペンクラブ会長を務めた浅田氏に、作家が読み、書き、生きることについて伺う。

1951年東京生まれ。中央大学杉並高等学校卒業後、自衛隊に入隊。除隊後はアパレル業界などで働きながら投稿生活を続け、1991年、『とられてたまるか!』でデビュー。悪漢小説作品を経て、『地下鉄に乗って』で吉川英治文学新人賞、『鉄道員』で直木賞を受賞。時代小説の他に『蒼穹の昴』、『中原の虹』などの清朝末期の歴史小説も含め、映画化、テレビ化された作品も多い。

⑧ 11月21日(火) <人間の力を信じる経営>

藤野 英人(ふじの ひでと) レオス・キャピタルワークス株式会社 代表取締役社長・最高投資責任者

「投資の本質～人の可能性に投資する～」

「投資とは正しい考え方・方法を使うことによって、自分の人生を豊かにし、社会に活力を与えられる行動である」と語る藤野氏。投資家として数多くの経営者と向き合ってきた経験にもとづいた「伸びる会社の法則」を伺い、「人の可能性に投資する」という投資の持論を聴く。

1966年富山県生まれ。早稲田大学法学部卒。2000年前後に中小型株投資で驚異的なパフォーマンスを上げ、「カリスマファンドマネジャー」と呼ばれる。自身が運用を担当する「ひふみ投信」は、格付投資情報センター(R&I)の「R&Iファンド大賞」を2015年までに4年連続で受賞するなど、いまなお健在ぶりが目立つ。投資教育にも注力しており、明治大学商学部兼任講師も務める。著書も『投資家が「お金」よりも大切にしていること』(星海社新書)、『投資レジェンドが教える ヤバい会社』(日本経済新聞出版社)など多数。

⑨ 11月22日(水) <人間の力を信じる経営> ※本講演は対談を含む講演90分と質疑応答30分の構成です。

中原 淳(なかはら じゅん) 東京大学大学院総合教育研究センター 准教授

為末 大(ためすえ だい) (為末氏の肩書きは講師のご希望により肩書き無しといたします)

「仕事人生のリセットボタン：長期間労働時代をいかに完走するか？」

キャリアチェンジが当たり前の時代に私達はどのように生きるべきか。そのヒントは、大半が若くしてリセットを求められるアスリートにあるのではないか。現役引退後、多様な分野で活躍する為末氏と、大人の学びを研究する中原准教授の対話から、長い仕事人生を生き抜くアイデアをみたい。

【中原 淳】1975年北海道生まれ。東京大学教育学部卒業、大阪大学大学院人間科学研究科。大阪大学博士(人間科学)。メディア教育開発センター(現・放送大学)、米国・マサチューセッツ工科大学客員研究員等を経て2006年より現職。「大人の学びを科学する」をテーマに、企業・組織における人々の学習・コミュニケーション・リーダーシップを研究。ワークショップも多数プロデュースしている。

【為末 大】1978年広島県生まれ。陸上トラック種目の世界大会で日本人として初のメダル獲得者。シドニー、アテネ、北京と3度のオリンピックに出場し、2012年に25年間の現役生活から引退。現在は、スポーツに関する事業を請け負う(株)侍を運営するほか、一般社団法人アスリート・ソサエティの代表理事を務める。

⑩ 11月28日(火) <日本の近代>

米倉 誠一郎(よねくら せいいちろう) 法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科 教授、

一橋大学イノベーション研究センター 特任教授、日本元氣塾 塾長

「イノベーターたちの日本史：近代日本の創造的対応」

ベンチャーの応援団を自認する米倉教授の本来の専門は歴史学である。近代日本の黎明期にイノベーターに時代の荒波を乗り越えていった明治の企業家達の創造的な経営行動と組織設計を明らかにすることで、彼らはどうのように未来を切り拓いていったのかを知りたい。

1953年生まれ。1977年一橋大学社会学部卒業、1979年同大経済学部卒業。1981年同大社会学修士、ハーバード大学大学院(GSAS)歴史及び東アジア言語学専攻博士課程修了、博士(Ph.D.)(歴史学)。企業経営の歴史的発展プロセスを、戦略・組織・イノベーションの観点から研究。『一橋ビジネスレビュー』編集委員長も務め、著書も多数。

⑪ 12月6日(水) <戦略と技術が拓く近未来>

石川 康晴(いしかわ やすはる) 株式会社ストライプインターナショナル 代表取締役社長兼 CEO
「ストライプインターナショナルのイノベーション」

わずか4坪のセレクトショップからスタートし、数々の路線転換を繰り返すことで、イノベーションと事業成長を実現させてきた。ファッションビジネスにとどまらず、ライフスタイル&テクノロジーカンパニーへの進化をめざす石川社長に今後の夢と成長企業戦略を伺う。

1970年岡山県生まれ。23歳で知カンパニー(のちのストライプインターナショナル)を創業。アースミュージック&エコロジー等のアパレルブランドで幅広い女性の支持を掴み、わずか4坪の店から年商1100億円へ急成長を遂げる。2013年 起業者表彰制度「EYアントレプレナーオブ・ザ・イヤージャパン2013」にて「ナショナル・アントレプレナーオブ・ザ・イヤード部門」入賞、日本代表選出 2016年 企業家ネットワーク主宰「年間優秀企業家賞」にて第18回企業家大賞受賞。創業地岡山での地域貢献活動についても積極的に取り組まれる。

⑫ 12月15日(金) <人間の力を信じる経営>

近藤 宣之(こんどう のぶゆき) 株式会社日本レーザー 代表取締役社長
「社員をとことん大事にする経営～黒字経営を継続するためのマネジメント～」

債務超過の子会社を1年で黒字化し自ら本社へ戻る道を絶つ。生涯雇用の保証とあらゆる差別の撤廃で社員のモチベーションを高め親会社からの独立と24年間連続黒字を達成した近藤社長。親会社での壮絶なリストラ経験を糧にした哲学、進化を続ける経営手法にヒントを頂きたい。

1944年東京生まれ。慶應義塾大学工学部電気工学科を卒業後、日本電子株式会社に入社。1994年に同社から子会社の日本レーザーの社長に就任。倒産寸前の危機を脱しV字回復を実現する。すべての社員を株主にする(MEBO)など、中小企業の特性を活かした人事制度によって活力を高めた同社の経営は、第1回「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞等を受賞した。新著『ありえないレベルで人を大切にしたら23年連続黒字になった仕組み』が話題に。

⑬ 2018年1月16日(火) <こころと身体に向き合う>

瀬戸 健(せと たけし) RIZAPグループ株式会社 代表取締役社長
「失敗力」

いまや一世を風靡している「結果にコミット」のフレーズでお馴染みのRIZAP社。同社の創業者瀬戸社長は、「かつては落ちこぼれであった」と振り返る。自分自身の失敗談を元に、RIZAPグループの理念「人は変わる」の証明でもある実践的人生・経営論を伺う。

1978年福岡県北九州市生まれ。福岡県立北筑高校卒業、明治大学商学部中退。2003年に健康コーポレーション株式会社を設立、健康食品の通信販売を始める。通信販売の商品ライン拡充のための美容機器等の製造販売を経て、2010年に「結果にコミットする」のキャッチコピーで有名な、ボディメイク事業RIZAPを創業。3年で売上高100億円を突破し、2017年3月には、国内・海外合わせ120店舗を達成、会員数も80,000人を超えた。

⑭ 1月17日(水) <こころと身体に向き合う>

松村 真宏(まつむら なおひろ) 大阪大学大学院経済学研究科 教授
「人を動かす『仕掛学』」

仕掛学は人の行動を変える「仕掛け」を研究対象にした新しい学問分野である。例えばゴミ箱にバスケットゴールを付けることでゴミをシュートしたくなり、ポイ捨ては激減するという。専門家である松村教授から、仕掛けの満たすべき要件や原理など最新の研究知見を聴きたい。

1975年大阪生まれ。大阪大学基礎工学部システム工学科卒業。東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。博士(工学)。2004年より大阪大学大学院経済学研究科講師、2007年より同大学准教授。人の行動を変える「仕掛け」をテーマにした新しい学問分野を切り開き、研究に取り組まれている。

⑮ 1月25日(木) <この人に聞く>

土井 善晴(どい よしはる) 料理研究家
「和食を知らない日本人はいけないでしょう！」

毎日頂く食事こそが文化の礎。しかしグローバル化と共にライフスタイルや食の多様化が進むなかで、変わらぬ“伝統”はない。パリや大阪の有名店で修業を積み、日常の家庭料理を提案する一方で、正しい和食の知識普及にも努める土井氏とともにその本質を見つめ直したい。

1957年大阪生まれ。父は家庭料理の第一人者であった土井勝。大学卒業後、スイス、フランス、大阪にて料理修行。父親である土井勝料理学校勤務後、1992年独立。独特の柔らかい関西イントネーションでNHK『きょうの料理』では人気講師として活躍。また、「おかずのクッキング」は1988年より30年間レギュラーを務めるなど家庭料理指導のほか、全国にて文化講演活動も行う。